

創造の森

鶴岡第五中学校 学校だより 校長室より

◎ 1 学期〔コロナ禍の学校教育〕を振り返って

コロナ禍での経験を生かした学校教育の創造と生徒の成長

この2年と半年ほどの新型コロナウイルス感染症との闘いは、学校教育現場に精神的・物理的な影響を与えるとともに、これまでの学校教育の在り方を問う場になりました。ここ最近、全国的に再び増加傾向にあることから、まだまだ安心はできない状況です。これまで「学校教育(生徒の活動)は止めない」「自粛・縮小してもできる形を模索して実施すること」を考えて進めてきましたが、生徒や教職員、保護者、地域民の中には、この感染症に対して不安を抱く方が多くいることも事実であり、その点とのバランスをとることが求められてきました。

この2年と半年間は、学校にとっては、これまで当たり前のようにやってきた学校教育や行事の「在り方(ねらいなど)」を見直す機会になったと感じています。今後、そうした「在り方」の検討を進めながら、鶴岡五中が進むべき方向を明確にしていきたいと考えています。その見直しの一例として、今年度より「校内駅伝大会」を廃止しています。これにより授業時数の確保や年度始の初発指導の充実、生徒・教職員の時間的・精神的なゆとりが確保され、「修学旅行」等の成功につながっています。これから実施する「体育祭」「合唱祭」についても、平日開催とするなどの見直しを加える中で、安全面・健康面を重視した内容の厳選に取り組みながら、生徒の成長のために何をねらいとし、どんな資質・能力を身に付けるための行事にするのか検討していきます。また、「卒業式」や「入学式」の主役は卒業生・新入生とその保護者であることをぶれない視点として、実施方法などを検討していきたいと考えています。

1学期を終えるに当たって、各学級・学年でこの学期を振り返る学活や集会を行いました。ここで明らかになった学級・学年ごとの成果と課題を2学期の生活に生かしてほしいと思います。この1学期は、生徒会スローガンどおり、少しずつ update する姿が見える学期でした。その中でも私が感心したのは、田川総体の壮行式でした。2学年生徒会(応援団)が中心となって企画・運営してくれました。「感染症対策」と「選手を激励する」「総体に思いをもって送り出す」といったねらいが明確になった素晴らしい場・時間になったと思っています。企画・運営する生徒が「ねらい」を理解していたから成功した行事であったと思います。これからも「生徒の成長」を積み重ねていきたいです。

(2022.7.25 文責 校長)